



2023年10月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒320-0041
宇都宮市松原2-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigiyymca.org
発行人 / 塩澤 達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News

10



表紙の写真から：2023年8月成田空港にて。南投YMCAの実習生を迎え入れた際の様子です。

7月31日から9月1日までの約1ヶ月間、南投YMCA(台湾)より学生9名、大学教員2名の計11名が来日し、特別養護老人ホームマイホームきよはらで介護実習を行いました。学生たちは、台湾南投縣にある南開科技大学と朝陽科技大学の高齢者福祉について学んでいる学生で、実習ではマイホームきよはらの各ユニットに配属され、介護の基礎的知識や、認知症についての知識、実技実習など、様々な学びを深めていきました。この学生受入プログラムは、今回で8期目となります。コロナ禍において、皆様のご協力・ご支援頂きありがとうございました。

～実習生(南開科技大学学生 蘇静芳さん)からのメッセージ～

這一個月的實習真的過得很快，感覺才剛來到日本而已，但一轉眼就要回台灣了，在這一個月真的學到了很多，不只是學到了有關介護的臨床技術，還有嚐到介護食跟正常食物的差別，最終也體驗到了日本文化。在YMCA中，我學到的是耐心跟溫柔的對待長者，這方面真的跟台灣很不一樣，執行每件事前都一定會告知長者接下來的步驟，光是這點就令人敬佩；至於體驗日本文化是讓我印象最深刻，也是一輩子都不會忘的，那就是參加祭典及扛日本神轎，我們要回台灣的前幾天有再到宇都宮二荒山神社走走，當看到長長的階梯時，都很震驚我們怎麼把重達300公斤的神轎扛上去的

最後，我們大家都很喜欢在日本的生活，捨不得這裡的人、事、物，謝謝日本這一個月的照顧！

この1ヶ月間の実習は過ぎるのがとても早く、日本に来たばかりだと思ったらもう台湾に帰らなければいけないような感覚です。実習では、介護関係の臨床技術を学んだり、介護食（嚥下調整食）と一般職の違いを食べて味わってみたり、また日本文化を体験したりするなど、とても多くのことを学ぶことが出来ました。YMCAの高齢者施設では、職員が直向きに暖かくお年寄りの方と関わっているところが台湾の施設と大きく異なる部分でした。毎回、お年寄りの方に必ず次にやることを説明してから行動を促している姿をみてとても感激しました。また、日本文化の体験の中で一番印象的だったものが、宮まつりに参加し日本のお神輿を担いだことです。台湾に帰国する前に二荒山神社を歩いてたとき、長い階段を見て、宮まつりの時はあの300kgもあるお神輿を担いでこの階段を登ったのだと改めて驚きました。最後に、私たち実習生は日本での生活がとても好きで、こちらにいるみなさんや、思い出と別れるのがとても辛いです。この1ヶ月間大変お世話になり感謝を申し上げます。 訳：荒井 浩元



とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2023年度とちぎYMCA年間聖句

主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書40章31節)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書11章28節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「 さくらんぼ便り 」



幼稚園の夏休み期間も、2号・3号・フレンドシップに通う子どもたちは、変わらず元気いっぱい幼稚園に登園しました。今年の夏は、猛暑が続き、園庭での戸外遊びは思うようには行えませんでした。その分、プールでの水遊びをたくさん楽しむことができました。本園舎の大きいプールでは、体育講師が指導を担当する日もあり、流れるプールを作ったり、ビート板を使ってパタ足の練習をしたり、ダイナミックに水遊びを楽しむ姿が見られました。小さいプールでは、水鉄砲を使って友だち同士で水をかけあったり、水風船で遊んだり、氷を作って、プールに入れて遊んだりしました。「キャー!冷たい!」と気持ち良さそうな笑顔が印象的でした。

この夏休み期間で、水に顔がつけられるようになったり、少しずつ泳げるようになったりと、一人ひとりに成長が見られました。また、園庭に出られない時は、体育館を使用し、ボール遊びやアヒルホッケー等を行い、保育者や友だちとたくさん体を動かしました。また各クラスで夏ならではの活動も行いました。夏祭りここでは、輪投げやヨーヨー釣り、的あてや魚釣り等のゲームをしたり、手作りのお面や法被を身に付けて楽しんだクラスもありました。お祭りのBGMを流し、お祭りの雰囲気できやかに行うクラスもあり、それぞれのクラスによって楽しみ方は様々でした。製作活動も、それぞれのクラスで、かき氷やアイスクリーム、魚等を作って、季節を感じることもできました。暑さに負けず、子どもたちは元気に過ごすことが出来ました。2学期からは、またそれぞれのクラスで活躍を楽しみにしております。

武田 絵梨佳



親と子どもの居場所 めいめい 「 森林公園へお出かけ 」



8月の下旬にみんなで森林公園へお出かけをしました。広い芝生のエリアでは、昆虫採取や、ボール遊びを行い、子どもたちは思い思いに楽しい時間を過ごしました。また、公園内を自転車で自由に回り、親子でサイクリングにも挑戦しました。普段はあまり自転車に乗らない子が、他の友だちが自転車に乗っている姿を見て、「僕もやりたい」とチャレンジする様子もあり、いつもとは違う広い場所でサイクリングが出来たことが子どもたちにとって刺激になったようです。

午後には保護者の方やボランティアと一緒に水鉄砲を作り、水遊びを行いました。最初は作り方が分からなかった子も、周りの友だちやスタッフ・ボランティアにヒントをもらい、完成させることが出来ました。完成した水鉄砲を眺める顔は、達成感を感じているように見えました。作った水鉄砲を手に広場へ行き、的あてをして遊びました。最初はなかなか上手的に当たらない子も徐々にコツをつかみマスターし、笑顔で遊んでいました。今回のお出かけでは、子どもたちのいつもと違う表情を沢山見ることができ、とても新鮮でした。今後もお出かけなどのイベントも計画する予定です。

袖山 千歳



ひがしやまアトムクラブ 「 楽しかった夏休み 」

あっという間に夏休みが終わってしまい秋の涼風を感じる季節になってきました。今年の夏休みは昨年行った川遊びへ行くことが出来ず、代わりに竹水鉄砲作りにもみんなで挑戦しました。製作の得意な子・苦手な子、様々ですがそれぞれが一生懸命に取り組み、時には手伝ってもらいながら仕上げる事が出来ました。作った竹水鉄砲でプールの水を何度も吸い上げ、友だち同士で掛け合う姿はとても楽しそうでした。



主任支援員 田代 みつ子



YMCAスタッフとリーダーが清原地域の子どもたちのキャンプへ 「 清原地区サマー体験キャンプ 」



8月19日(土)～20(日)に『清原地区サマー体験キャンプ』が宇都宮市冒険活動センターで開催されました。清原地区の小学校5校(清原中央・清原北・清原南・清原東・ゆいの杜)の4～6年生の子どもたちが参加し、野外炊飯、キャンプファイヤー等を体験するキャンプです。キャンプ運営は清原地区の青少年育成協議会や子ども会連合会などの方々が、「まち」が運営する「まち」の子どもたちのためのキャンプです。

とちぎYMCAからは2名のスタッフ(荒井・袖山)、5名のリーダー(みーやん・ふっか・ゆう・ムーミン・ちよん)でキャンプ運営や野外炊飯指導等のお手伝いをさせて頂きました。43名の子どもたちが元気に参加し、様々なアクティビティに積極的に取り組み、子どもたちにとって実り多き時間を過ごすことができました。YMCAがお手伝いをさせて頂いて今回で5回目となり、様々な実体験が子どもたちの成長に繋がるとを願っています。

荒井 浩元



宇都宮市青少年活動センター(トライ東) 「 トライ東宿泊体験プログラム! 」

8月19日・20日にトライ東にて、小学1～3年生を対象に宿泊体験プログラムを行いました。まず、初めにグループのお友だちを知るためにアイスブレイクを行いました。一言もしゃべらずジェスチャーのみで誕生日順や身長順で素早く並んだり、ボールを協力して運んだり、様々なレクリエーションを行いました。始めは緊張気味な様子でしたが、徐々に笑顔を見ることができ、楽しそうな雰囲気でした。午後は翌日の朝食のカートンドッグで使用する具材の買い出し、その後は竹の水鉄砲を作りました。外で全員びしょびしょになって気持ちよく水遊びをしました。



夜は体育館にて「おたのしみ」を実施しました。様々な競技にグループで協力して挑戦し、クリアを目指しました。みんなで楽しく汗をかいた後、シャワーを浴びて1日目は終わりました。2日目の朝食は買った具材を入れ、自分たちで火付けをし、カートンドッグを作りました。グループ毎に入っている具材が違うので、グループの個性が出ていた素敵な朝食となりました。朝食を食べ終えた後は、外に出て焼き板づくりを行いました。各々が、この宿泊体験での思い出や、家族や兄弟の名前を書いて持ち帰ることが出来たので、夏の思い出の一つになっていると思います。今回のプログラムで体験したことを大切な学びとして子どもたちの成長に繋がればと思っております。

鷹箸 守



ようとう保育園 「 保護者会主催2023夕涼み会 」

8月26日(土)夕涼みを開催しました。コロナ禍ではクラスごとに縮小して行ってきましたが、今年は熱中症対策や感染症対策などを考慮しながら幼児組3クラス同時開催で新しいスタイルでの夕涼み会となりました。残暑とは思えぬ暑さのなかでも子どもたちは元気いっぱい、笑顔いっぱい楽しんでいました。模擬店はヨーヨー釣りやお面づくりなどをスタンプラリー形式で行いました。ワニワニパニックでは先生方手作りのワニを真剣に叩く子どもたちの姿に、私たち保護者も一緒に盛り上がりました。子どもたちは、お父さん・お母さんやお友だち、先生方と喜びを共有しながらスタンプを集めることができました。



また、さくら組(年長)さんはふじ組(年中)さんとうぐいす組(年少)さんのお友だちのお店番も経験することができ、達成感を味わうことができたようでした。そして夕涼み会の醍醐味の1つが「おみこし」です。毎年子どもたちがテーマを出し合い、先生方とおみこしを創りあげます。今年のおみこしのテーマは『キラキラ花火』『ハートの宝箱』『クラゲと海のお魚、竜宮城』です。子どもたちは「わっしょい!わっしょい!」と声を掛け合い色とりどりのおみこしを頑張って担いでいました。



夕涼み会を通して、子どもたちは普段からお友だちと協力し、先生のサポートをいただきながら活動していることがよく感じられました。当日は子どもと一緒に夏のイベントを十分に楽しむことができ貴重な時間となりました。開催にあたり様々な工夫をして準備をしてくださった園長先生をはじめ先生方、本当にありがとうございました。

ようとう保育園保護者会会長 金谷 奈津

「 アドボの日+お菓子の日@さくらんぼ幼稚園 」

9月9日(土)「アドボの日」と「お菓子の日」をさくらんぼ幼稚園にて開催いたしました。「アドボの日」とはフィリピンの家庭料理アドボ(鶏肉を酢と醤油とにんにくで煮込んだ料理)を食べることで、国際協力募金に協力していただく日です。当日は子ども連れのご家族に多くお越しいただき、50名以上の方にアドボを楽しんでいただきました。また同時開催の「お菓子の日」にもお菓子を寄付いただき、みなさま喜んでいただけました。収益金は25,054円となり、とちぎYMCA国際協力募金に寄付させていただきます。

とちぎYMCA国際協力募金は一人ひとりのいのちが大切にされる「ポジティブネット」のある豊かな社会を目指します。

- 子どもたちの「遊びたい!」「学びたい!」ができるように
- 若者の「地域や世界をよりよく変えたい!」が実現できるように
- 互いを大切に思い、平和な社会を創ることができるように

★とちぎYMCAでお預かりした募金は以下のような支援のために使われます。

- 日本YMCA同盟を通して、世界のYMCAの活動支援
 - ウクライナ避難者支援活動
 - アジアのYMCA支援
 - 緊急災害支援
- フィリピンの学生への奨学金
 - タラHRCF高校生・大学生支援
 - ナボタス 大学生支援

●お菓子のご寄付をありがとうございました。沼尾 様、古川 様、山下 様、大浦 様



YMCAsが実現したい世の中は、互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善悪や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会の中でも、それは、生きるためのひとつの選択課題となつてい。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワークを基盤として「ポジティブネット」を掲げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

SDGsワークショップ報告

わたしたちの地球にできることは「風が吹けば、桶屋がもうかる」でわかる!



7月29日(土)に「～持続可能な世界を作るためのSDGsワークショップ～未来の地球と私たちのためにできること」を開催しました。

ファシリテーターは流和歌子さん(元さくらんぼ幼稚園保護者)、参加者は小・中学生10名を含む25名。ゲームとその後のお話しを通して、私たちの日々の生活のあり方をよく振り返ることがSDGsについて考える上では大切だということ学びました。

ゲームはチーム毎に与えられた目的のために様々な活動をする中で進みます。会場には項目が示されており、参加者はゲームが後半に差し掛かると「社会」「経済」「環境」のバランスに差がでていることに気づきました。経済や社会がよい一方、環境が思わしくありません。すると、それぞれのチームはどうすれば環境がよくなるか、チーム内だけでなく他のチームと交渉するなどして、前半とは違った様子が見られました。今回のゲームは全員が経済、社会と環境の関係を理解できたところで終了となりました。

「風が吹けば、桶屋がもうかる」という“ことわざ”があります。「一見関係のないところに因果関係がある」という意味ですが、このことが地球環境問題の理解を助けてくれます。流さんはポテチと地球温暖化の関係で説明してくれました。ポテチに使われるパーム油は熱帯林を伐採したプランテーションで栽培されています。伐採で二酸化炭素の吸収量が減り、大雨が降れば水害、雨がなければ干ばつになるという環境になってしまいます。また、プランテーションには、低賃金や過酷な条件で労働する人がいます。私たちが安いポテチを買う行動が地球の異常気象や搾取を引き起こすことに繋がっているのです。

チョコレート、アイスクリーム、カップラーメン、マーガリン、シャンプー、洗剤などもパーム油を原料として作られていることを知ると、私たちの消費行動を考える必要があります。

ワークショップの後には、いくつかの事例を挙げて、説明してくださり、子どもたちもよく理解できたようです。

また、機会を作りもっと多くの方たちにこのワークショップを経験していただき、わたしたちの地球の問題は私たち自身の行動を変えないと持続可能になっていかないということを知ってほしいと思いました。



AYC(アジア・ユース・コンボケーション)

AYC(アジア・ユース・コンボケーション) にリーダーが参加しました!

2023年8月23日～8月30日(前泊も含む)まで宇都宮大学2年渡辺乙葉さん(わらびリーダー)がネパール・カトマンズで行われたAYC(アジア・ユース・コンボケーション)に参加しました。AYCはアジアの国々から若者が1か所に集い、ディスカッションを行い、若者それぞれが叡智と知見を広げる会です。

なお、今回参加が実現したのは、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区、宇都宮ワイズメンズクラブ、Y3宇都宮、国際協力募金など多くの方々のご支援によるものです。心よりお礼申し上げます。以下は渡辺さんの感想です。



「私は私」。このことは、今回初めて参加させていただいたAYCで強く感じたことです。参加者の皆さんは、自分の好きな服装で自分を表現していたり、自分の意見を皆さんの前で発表したりしていました。そして、「私は私」という強い信念を持って、様々なボランティアに参加し、行動している人たちがばかりでした。私には、人にどう思われようと、自分がしたいことに挑戦し、目標に向かって前進しているように見えました。そのような皆さんを見て、私はとてもちっぽけだと感じました。なぜなら、このAYCに参加することにすら躊躇いがあったからです。私は、英語が得意なわけでもなく、社交的なわけでもありません。海外への渡航経験がなかったため、日本を出ることや、それに関する手続きすら、非常に不安でした。

しかし、AYCに参加して、そんな私でも「私は私」でいいのだと思わせてくれた出来事がありました。それは、参加者たちとMBTIの話になった際、「外向型・内向型のどちらが良いなんてないじゃない?」と言われたことです。MBTIとは、心理学的な選好を示す性格検査です。私はそれまで「外向型の方が良いに決まっている」と思っていました。それは今の世の中では、社交性・リーダーシップが重要だと説かれているからです。集団面接では、真っ先に仕切り出す人物が高く評価されることが想像できます。学校でも、面接の場では、積極的に発言しなさいと言われてきました。このことから私は、世の中も外向型の人物を求めているのだと思い込んでいました。私は内向型のため、そのことに劣等感を抱いていました。しかし、タイと香港からの参加者に、私と同じMBTIの方がいました。私は、外国人の方は外向型で、社交的なのだらうと思っていたこともあり、私と同じ結果の方がいたこと、そして、「外向型・内向型のどちらが良いなんてない」という言葉に「私は私」でいいのだと思うことができました。

些細な出来事かもしれませんが、私にとってはAYCに参加して良かったと心の底から思える出来事の一つです。それ以外にも、各国の文化に触れ、交流したり、ネパールや世界の抱えている問題を目の当たりにして、私にできることはないかと考えたり、もっと英語を勉強したいという思いに火が点きました。AYCでの学びをこれからの人生に生かしていくとともに、次のAYC、IYCにもぜひ参加させていただきたいです。



絵本のご寄付ありがとうございました!

今年も、全国YMCAのサポート団体、ワイズメンズクラブメネットの皆さま(クラブメンバーのパートナーの方々)から絵本の寄付を頂きました。保育園や幼稚園では毎日の読み聞かせで、アフタースクールでは子ども自発的な学習材料として大変助かっています。毎年、心温まる支援、心から感謝いたします。ありがとうございました。



月刊#(ハッシュタグ)



第28回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総理事
塩澤 達俊

#公益法人 #普遍宗教 #主の祈り #食前感謝 #全人的

YMCAはその性質上(キリスト教を出自にもつという特性)なにかと「お祈り」をする団体です。

はじめてその場に立ち会った方は必ずギョッ!とすることと思います。こ、これは、ヤバイ宗教のアレかもしれないと思わせるのでチョット見には不可思議で、コワイ感じがするのも無理はないからです。それでもご安心いただきたいのは、とちぎYMCAは宗教の団体ではありません。

あらゆる宗教や、国籍や、思想・信条などなど、全ての県民、市民、さらにはあらゆる方々の日常に寄り添って、どなたにも開かれている「公益法人(学校法人=さくらんぼ幼稚園&子どもの家・宇都宮市放課児童クラブ、社会福祉法人=マイホームきよはら、ようとう保育園&子どもの家・宇都宮市放課後児童クラブ、公益財団法人=宇都宮市青少年活動センターライ東など)」なのです。

とちぎYMCAは特定の宗教への入信を誘うものではなく、普遍宗教(仏教、イスラム教、キリスト教)であるキリスト教の宗教的・文化的な価値観に触れる機会を通じて、もう一つの豊かな気付きを人生の折々で体験いただきたいと願う、国の法律で明治時代から認められて市民権を得ている公益法人なのです。

例えば、さくらんぼ幼稚園の園児の皆さんは毎日の給食の時に「食前感謝の祈り」を唱え、遠足や宿泊保育の出発の時には「みんなが元気で帰ってこられますように」と祈り、子ども礼拝のときには「主の祈り(しかも古い日本語表現で!)」を語って唱えています。

高齢者施設のマイホームきよはらでは、ご入居者さまがお亡くなりになった時には「お別れ会」と称して(大体の方はキリスト教信者ではないのですが)賛美歌を歌い、お祈りをして故人の平安を祈りお別れをします。

これらは、決して特定の宗教の価値観を押し付ける意図ではなく、ましてや入信を誘うものでもなく、普遍的な価値観(感謝をする、ありがとうと言える、困った人がいたら助ける等々)をキリスト教の文脈の中からピックアップして、更に自らの価値観を他のあらゆる宗教や価値観と等しく並べて相対化させて、誰の人生にとっても大切な普遍的なメッセージを発信するという全人教育的な意図があるのです。

そういうわけですので、とちぎYMCAのいろいろな場面では「お祈り」や「キリスト教の香り」があるかもしれませんが、どうぞご安心いただきまして、よろしくお付き合いのほどお願い申し上げます。

高校生ボランティアグループ「つぼみ」



つぼみ通信 vol.6



つぼみはどうあるべき? ~高校生の悩みの記録~

夏休みが明け、2学期最初のリーダー会で、改めて「つぼみはどうあるべきか」という議題で話し合いをしました。1学期の自分たちの活動の様子を振り返ると、もっと様々なことに自分たちの力で挑戦したいという思いがあったからです。

話し合いの中で「つぼみにしかないもの」として「若者の目線」という意見があげられました。「つぼみ」にしかない高校生リーダー1人ひとりのアイデアや考えを十分に活かすことで活動の幅を広げて行きたいと考えています。また「今のつぼみに必要なもの」として「明るさ、元気」という声もありました。もちろん、つぼみは明るさと元気が取り柄です!つぼみのリーダーがその場所にいることで、パッと明るくなるような雰囲気づくりを目指します。

2学期はつぼみ食堂やサンタ de ランなど「つぼみ」にとっての大きなイベントが沢山あります。高校生の「つぼみ」らしく、みんな明るく、元気に活動に励み、パワーアップした「つぼみ」の姿をお届けできるように頑張ります!

宇都宮南高校2年 高野裕斗(ツクル)

